

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2009-291702

(P2009-291702A)

(43) 公開日 平成21年12月17日(2009.12.17)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 0 5 C 21/00 (2006.01)	B 0 5 C 21/00	3 F 1 0 8
B 0 5 B 15/04 (2006.01)	B 0 5 B 15/04 1 0 2	4 D 0 7 3
B 6 5 H 37/04 (2006.01)	B 6 5 H 37/04 B	4 F 0 4 2

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2008-146933 (P2008-146933)	(71) 出願人	598049469
(22) 出願日	平成20年6月4日(2008.6.4)		宝寿産業株式会社
			大阪府和泉市王子町 1 1 1 6 - 7
		(74) 代理人	100074332
			弁理士 藤本 昇
		(74) 代理人	100114421
			弁理士 薬丸 誠一
		(74) 代理人	100114432
			弁理士 中谷 寛昭
		(72) 発明者	船本 公明
			大阪府堺市西区鳳西町 1 丁 7 7 - 9 宝寿
			産業株式会社内
		F ターム (参考)	3F108 GA09 HA14
			4D073 DB03 DB14 DB32
			4F042 DG01 DG18

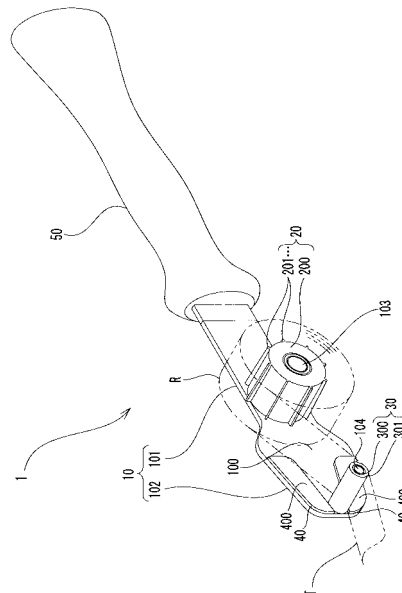
(54) 【発明の名称】 マスキングテープ貼付け具

(57) 【要約】

【課題】 作業者の作業負担を軽減しつつも面取りを含めて確実にマスキングすることのできるマスキングテープ貼付け具を提供する。

【解決手段】 ベースと、ベースの一方の面側に設けられ、テープロールを着脱可能に構成されとともにテープロールをベースの一方の面と直交する方向に延びる第一軸線周りで回転自在に保持するロール保持体と、ベースの一方の面側に設けられ、第一軸線と平行な第二軸線周りで回転自在に構成されとともに外周が弾性材料からなる押圧ローラとを備え、ベースの一方の面から隆起し、押圧ローラ的一端部の外周と部分的に対向する隆起部を備え、隆起部には、マスキングテープを貼り付ける面と直角をなす面に沿わせるためのガイド面が形成され、隆起部と押圧ローラ的一端部の外周との間に、テープロールから引き出したマスキングテープの幅方向の一端部を介挿入できるように構成されている。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

プレート状のベースと、該ベースの一方の面側に設けられ、長尺なマスキングテープの巻かれたテeproールを着脱可能に構成されとともに該テeproールをベースの一方の面と直交する方向に延びる第一軸線周りで回転自在に保持するロール保持体と、ベースの一方の面側に設けられ、前記第一軸線と平行又は略平行な第二軸線周りで回転自在に構成されとともに外周が弾性材料からなる押圧ローラとを備えたマスキングテープ貼付け具において、ベースの一方の面から隆起し、該一方の面と隣り合う押圧ローラの一端部の外周と部分的に対向する隆起部を備え、該隆起部には、マスキングテープを貼り付ける面と直角又は略直角をなす面に沿わせるためのガイド面が押圧ローラの一端よりも他端側でベースの一方の面と同方向に向いて形成され、隆起部と押圧ローラの一端部の外周との間に、テeproールから引き出したマスキングテープの幅方向の一端部を介挿入できるように構成されていることを特徴とするマスキングテープ貼付け具。

10

【請求項 2】

前記隆起部は、第一軸線と第二軸線とを通る仮想線を基準にした対称位置に一对設けられている請求項 1 に記載のマスキングテープ貼付け具。

【請求項 3】

前記ロール保持体は、マスキングテープの幅方向の一端がベースの一方の面に沿った状態で引き出し可能に構成され、前記押圧ローラは、一端がベースの一方の面と近接するように設けられている請求項 1 又は 2 に記載のマスキングテープ貼付け具。

20

【請求項 4】

前記押圧ローラは、外周の弾性材料が交換可能に構成されている請求項 1 乃至 3 の何れか 1 項に記載のマスキングテープ貼付け具。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、塗料やシーラー等の塗布材料の塗布の対象となる領域の境界に沿ってマスキングテープを貼り付けるためのマスキングテープ貼付け具に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来から、塗料やシーラー等の塗布材料を対象となる領域（以下、背景技術において、塗布領域という）に塗布するに当り、塗布領域の境界に沿うように該塗布領域と隣り合う領域（以下、背景技術において、マスキング領域という）に対してマスキングテープを貼り付ける（マスキングする）ことで、塗布領域を超えて塗布材料が塗布されるのを防止するようにしている。

30

【0003】

このようにマスキングテープを貼り付ける作業は、一般には作業者が長尺なマスキングテープの巻かれたテeproールから手作業でマスキングテープを引き出しつつマスキング領域に対して順々に貼り付けるようにしているが、塗布領域の境界に沿ってマスキングテープを貼り付ける作業は煩雑で作業者に対する作業負担が大きくなるとして、作業者の作業負担を軽減するためのマスキングテープ貼付け具が提供されている（例えば、特許文献 1 参照）。

40

【0004】

かかるマスキングテープ貼付け具は、プレート状のベースと、該ベースの一方の面側に設けられ、長尺なマスキングテープの巻かれたテeproールを着脱可能に構成されとともに該テeproールをベースの一方の面と直交する方向に延びる第一軸線周りで回転自在に保持するロール保持体と、ベースの一方の面側に設けられ、前記第一軸線と平行又は略平行な第二軸線周りで回転自在に構成されとともに外周が弾性材料からなる押圧ローラとを備えている。

【0005】

50

そして、上記構成のマスキングテープ貼付け具は、ベースの先端部が押圧ローラの外周よりも外方に突出しており、該ベースの先端部の一方の面がマスキング領域（マスキングの対象となる面）に対して略直角をなす面（以下、背景技術において、この面を立面という。）に沿わせるガイドとして機能するように構成されている。

【0006】

すなわち、上記マスキングテープ貼付け具は、タイル間の目地や建物の壁面が塗布材料の塗布の対象とされる場合、タイルの端面や、直角をなす二つの壁面のうちの一方の壁面にベースの先端部の一方の面を沿わせることができるようになっている。

【0007】

上記構成のマスキングテープ貼付け具は、マスキングするに際し、ロール保持体に保持させたテープロールからマスキングテープを引き出した上で、該マスキングテープの表面（粘着面とは反対側の面）を押圧ローラに巻き掛けるようになっている。これにより、押圧ローラに巻き掛けられたマスキングテープの粘着面が外側に向くことになり、押圧ローラをマスキング領域に向けて押圧しつつ移動させることで、マスキングテープをテープロールから引き出しつつマスキング領域に貼り付けることができるようになっている。

【0008】

そして、上記構成のマスキングテープ貼付け具は、上述の如く、マスキングテープをマスキング領域に貼り付ける際（押圧ローラをマスキングの長手方向に移動させる際）に、ベース（ガイド）を立面に沿わせることで、マスキングテープを塗布領域の境界に沿って貼り付けることができるようになっている。

【0009】

このように、上記構成のマスキングテープ貼付け具は、マスキング領域に向けて押圧しつつ移動させるだけで、塗布領域の境界に沿ってマスキングテープを貼り付けることができるため、作業者の作業負担を軽減することができる。

【特許文献1】特開平11-292384号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0010】

ところで、マスキング領域と立面との境界（角部）を面取りしたものがあがるが、上記構成のマスキングテープ貼付け具では、面取りまで完全にマスキングテープを貼り付けることができないといった問題がある。

【0011】

具体的には、上記構成のマスキングテープ貼付け具は、押圧ローラの外周（弾性材料）の変形に伴ってマスキングテープが面取りに沿うよう変形する際に、マスキングテープの幅方向の一端部が倒れ込むような態様となるが、マスキング領域と面取りとの境界から立面の沿ったベース（ガイド）までの距離、すなわち、マスキング領域と面取りとの境界からベースに向けて延出したマスキングテープの端部の延出量が、マスキング領域と面取りとの境界から立面と面取りとの境界までの距離（面取り幅）よりも短くなる。

【0012】

そうすると、押圧ローラの外周の変形に伴ってマスキング領域と面取りとの境界を支点にマスキングの端部が倒れ込んだとしても、その倒れ込んだ部分が面取りよりも短いため、面取りを確実にマスキングできないといった問題があった。

【0013】

そのため、作業者の作業負担を軽減できるとしたマスキングテープ貼付け具を用いながらも、マスキングテープの貼り直しや手作業による修正が余儀なくされるといった問題があった。

【0014】

そこで、本発明は、斯かる実情に鑑み、作業者の作業負担を軽減しつつも面取りを含めて確実にマスキングすることのできるマスキングテープ貼付け具を提供することを課題とする。

10

20

30

40

50

【課題を解決するための手段】

【0015】

本発明に係るマスキングテープ貼付け具は、プレート状のベースと、該ベースの一方の面側に設けられ、長尺なマスキングテープの巻かれたテープロールを着脱可能に構成されとともに該テープロールをベースの一方の面と直交する方向に延びる第一軸線周りで回転自在に保持するロール保持体と、ベースの一方の面側に設けられ、前記第一軸線と平行又は略平行な第二軸線周りで回転自在に構成されるとともに外周が弾性材料からなる押圧ローラとを備えたマスキングテープ貼付け具において、ベースの一方の面から隆起し、該一方の面と隣り合う押圧ローラの一端部の外周と部分的に対向する隆起部を備え、該隆起部には、マスキングテープを貼り付ける面と直角又は略直角をなす面に沿わせるためのガイド面が押圧ローラの一端よりも他端側でベースの一方の面と同方向に向いて形成され、隆起部と押圧ローラの一端部の外周との間に、テープロールから引き出したマスキングテープの幅方向の一端部を介挿入できるように構成されていることを特徴とする。

10

【0016】

上記構成のマスキングテープ貼付け具は、ロール保持体に保持させたテープロールからマスキングテープを引き出し、該マスキングテープの粘着面とは反対側の面（非粘着面）を押圧ローラに巻き掛けるとともに、ベースの一方の面から隆起した隆起部と押圧ローラの一端部の外周との間に、テープロールから引き出したマスキングテープの幅方向の一端部を介挿入した状態で使用される。この状態で、マスキングテープは、押圧ローラに巻き掛けられた部分で粘着面が外側に向いた状態となるため、マスキングテープの巻き掛けられた押圧ローラをマスキングする領域（面）に押し付けることで、押圧ローラに巻き掛けられたマスキングテープの粘着面がマスキングする領域に圧接した状態となる。そして、この状態を維持しつつマスキングする領域と直角をなす面にガイド面に沿わせてマスキングテープ貼付け具を移動させることで、マスキングテープがテープロールから引き出されつつマスキングする面に順々に貼り付けられることになる。

20

【0017】

そして、上記構成のマスキングテープ貼付け具は、押圧ローラの外周が弾性材料からなるため、上述のように押圧ローラがマスキングする領域に押し付けられると、その領域の態様に応じて押圧ローラの外周が変形し、該押圧ローラに巻き掛けられたマスキングテープについても追従して変形することになる。従って、マスキングする領域とこれに対して直角をなす面（ガイド面を沿わせた面）との境界部（角部）が面取りされていると、押圧ローラの外周が面取りに対応するように変形するのに伴って、マスキングテープの幅方向の一端部も面取りに沿うように変形する（倒れ込む）ことになる。

30

【0018】

そして、上記構成のマスキングテープ貼付け具は、ベースの一方の面から隆起した隆起部と押圧ローラの一端部の外周との間に、テープロールから引き出したマスキングテープの幅方向の一端部を介挿入されるため、押圧ローラの外周の変形に伴ってマスキングテープの幅方向の一端部が面取りに沿うように変形したときに、その面取り全体に密着することになる。すなわち、隆起部と押圧ローラの一端部の外周との間に、テープロールから引き出したマスキングテープの幅方向の一端部を介挿入することで、ガイド面をマスキングする領域と直角をなす面に沿わせた状態で、マスキングテープの一端部がガイド面を沿わせた面（面取りの端）よりも外側に位置することになる。これにより、マスキングする領域と面取りとの境界からベースの一方の面に向けて延出したマスキングテープの端部の延出量が、マスキング領域と面取りとの境界からマスキング領域と直角をなす面（該面に沿ったベースの一方の面）と面取りとの境界までの距離（面取り幅）と同等またはそれよりも長くなる。

40

【0019】

従って、マスキングテープの一端部が面取りに沿って変形した（曲がった）ときに、その面取りに沿う部分が不足することがなく、面取り全体をマスキングテープの端部で覆うことができる。

50

【 0 0 2 0 】

前記隆起部は、第一軸線と第二軸線とを通る仮想線を基準にした対称位置に一对設けられてもよい。このようにすれば、一对の隆起部の何れか一方と押圧ローラの一端部との間にマスキングテープの幅方向の端部を介挿入することができるため、押圧ローラにマスキングテープを巻き掛けた状態で粘着面が外向きになるようにテープロールを適宜反転させてロール保持部に保持させることで、当該マスキングテープ貼付け具を前記仮想線周りで反転させて使用することができる。すなわち、ガイド面を沿わせる面の向きに拘束されることなく、一つのマスキングテープ貼付け具でマスキングテープを境界に沿って貼り付けることができる。

【 0 0 2 1 】

10

前記ロール保持体は、マスキングテープの幅方向の一端がベースの一方の面に沿った状態で引き出し可能に構成され、前記押圧ローラは、一端がベースの一方の面と近接するように設けられてもよい。このようにすれば、マスキングテープを位置決めしつつ安定した状態で引き出すことができる。また、マスキングテープの幅方向の一端がベースの一方の面に沿うことで、押圧ローラと隆起部との間に介装入されるマスキングテープの端部の範囲を一定の所定幅にすることができる。すなわち、押圧ローラと隆起部との間に介装入されるマスキングテープの範囲を、ベースの一方の面と直交する方向でのガイド面とベースの一方の面との距離（間隔）に対応した範囲にすることができる。

【 0 0 2 2 】

20

前記押圧ローラは、外周の弾性材料が交換可能に構成されていることが好ましい。このようにすれば、弾性材料の弾性が使用や経年によって弱くなったときに新たなものにすることができるので、常に押圧ローラの外周に適正な弾性を賦与することができる。これにより、長期に亘ってマスキングテープを適正に貼り付けることができる。

【 発明の効果 】

【 0 0 2 3 】

以上のように、本発明に係るマスキングテープ貼付け具によれば、作業者の作業負担を軽減しつつも面取りを含めて確実にマスキングすることができるという優れた効果を奏し得る。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 2 4 】

30

以下、本発明の一実施形態に係るマスキングテープ貼付け具について、添付図面を参照しつつ説明する。

【 0 0 2 5 】

本実施形態に係るマスキングテープ貼付け具は、図 1 及び図 2 に示す如く、プレート状のベース 10 と、該ベース 10 の一方の面 100 側に設けられ、長尺なマスキングテープ T の巻かれたテープロール R を着脱可能に構成されるとともに該テープロール R をベース 10 の一方の面 100 と直交する方向に延びる第一軸線周りで回転自在に保持するロール保持体 20 と、ベース 10 の一方の面 100 側に設けられ、前記第一軸線と平行又は略平行な第二軸線周りで回転自在に構成されるとともに外周が弾性材料からなる押圧ローラ 30 と、ベース 10 の一方の面 100 から隆起し、該一方の面 100 と隣り合う押圧ローラ 30 の一端部の外周と部分的に対向する隆起部 40 とを備えている。

40

【 0 0 2 6 】

本実施形態に係るベース 10 は、板材を所定形状に切断して形成されており、本実施形態においては、一方向で長手をなすように形成されている。そして、該ベース 10 は、長手方向の一端部に作業者が把持するための棒状のグリップ 50 が連設されている。

【 0 0 2 7 】

本実施形態に係るベース 10 は、長方形に形成され、長手方向の一端がグリップ 50 に接続されたベース本体部 101 と、該ベース本体部 101 の他端に連設されたベース先端部 102 とで構成されている。前記ベース本体部 101 は、長手方向に延びる中心線 CL がグリップ 50 の中心軸線と連続するように設けられている。これに対し、前記ベース

50

先端部 102 の中心線 CL は、ベース本体部 101 の中心線 CL と共通している。これを前提に、ベース先端部 102 は、ベース本体部 101 に接続された基端から先端側に向けて中心線 CL の両側で同じ割合で拡大し、その最大に拡大した部分から先端に向けて所定幅にまで縮小するように形成されている。なお、本実施形態に係るベース先端部 102 は、先端の幅が前記ベース本体部 101 の長手方向と直交する短手方向の長さ（幅）に対応する幅に設定されている。

【0028】

このように本実施形態に係るベース 10 は、長手方向に延びる中心線 CL がグリップ 50 の中心軸線と連続した直線となるように設けられ、また、長手方向に延びる中心線 CL を基準にした対称形状に形成されている。そして、該ベース 10 には、前記ロール保持体 20 を軸支する第一軸 103 と、押圧ローラ 30 を軸支する第二軸 104 とが設けられている。

10

【0029】

前記第一軸 103 は、軸心がベース 10 の一方の面 100 と直角をなすように該ベース 10 の一方の面 100 に延設されている。本実施形態において、前記第一軸 103 は、ベース 10 の中央部に設けられている。すなわち、第一軸 103 は、前記中心線 CL 上に位置するようにベース本体部 101 の他端部近傍に設けられている。

【0030】

前記第二軸 104 は、軸心がベース 10 の一方の面 100 と直角をなすように該ベース 10 の一方の面 100 に延設されている。本実施形態において、前記第二軸 104 は、ベース 10 の先端部の中央に設けられている。すなわち、第二軸 104 は、ベース 10 の中心線 CL 上に位置するようにベース先端部 102 の先端側に設けられている。

20

【0031】

本実施形態に係るロール保持体 20 は、取り付けたテーブルロール R とともに第一軸線周りで回転するようになっている。具体的には、ロール保持体 20 は、円柱状に形成された保持体本体 200 と、該保持体本体 200 の外周に対し、周方向に間隔をあけて凸設された複数のロール保持片 201 とを備えている。前記保持体本体 200 は、中心部に第一軸 103 が挿通されており、これによって第一軸 103（第一軸線）周りで回転できるようになっている。特に採番しないが、ロール保持体 20（保持体本体 200）の円滑な回転を確保するために、保持体本体 200 と第一軸 103 体との間には軸受部材を介装されている。すなわち、ロール保持体 20 は、第一軸 103 に外嵌された軸受部材に対して外嵌状態で固定されている。かかる軸受部材としては、ベアリングや無給油ブッシュ等を採用することができる。

30

【0032】

そして、保持体本体 200 は、一端面がベース 10 の一方の面 100 と近接した配置で維持できるように、第一軸 103 に対して抜け止めが施されている。なお、抜け止めに関する構成は、一般的な構成であるところ、図示を省略している。

【0033】

各ロール保持片 201 は、保持体本体 200 の軸線方向に延びる凸条により構成されている。そして、本実施形態において、各ロール保持片 201 は、保持体本体 200 の最も外側にある他端面から一端面に向けて、保持体本体 200 の外周からの突出量が大きくなるように形成されている。すなわち、ロール保持片 201 は、保持体本体 200 の一端側から他端側に向けて先下りに傾斜するように形成されている。

40

【0034】

上記構成のロール保持体 20 は、テーブルロール R の筒状の芯体を外嵌したときに、各ロール保持片 201 が該芯体の内周面に圧接することで該テーブルロール R を保持できるようになっている。本実施形態においては、ロール保持片 201 がテーブルロール R の嵌め込み方向に向けて徐々に突出量が大きくなっているため、外嵌当初は嵌め込みに対する抵抗が小さく、嵌め込みの最終段階で各ロール保持片 201 がテーブルロール R の芯体に圧接するようになっている。これにより、テーブルロール R の着脱が迅速且つ円滑に行えるようにな

50

っている。

【 0 0 3 5 】

本実施形態に係る押圧ローラ 3 0 は、図 3 に示す如く、第二軸 1 0 4 に外嵌された筒状のローラ本体 3 0 0 と、該ローラ本体 3 0 0 の外周に外嵌された筒状の外輪体 3 0 1 とを備えている。なお、本実施形態においては、ローラ本体 3 0 0 の回転の円滑性を確保すべく、ローラ本体 3 0 0 と第二軸 1 0 4 との間に無給油式のブッシュ 3 0 2 が介装されている。

【 0 0 3 6 】

前記ローラ本体 3 0 0 は、第二軸 1 0 4 に対して外嵌されることで、該第二軸 1 0 4 (第二軸線) と同心で回転可能に設けられている。そして、ローラ本体 3 0 0 は、ベース 1 0 の一方の面 1 0 0 と隣り合う一端が該ベース 1 0 の一方の面 1 0 0 と近接するように配置されている。かかるローラ本体 3 0 0 は、その配置で維持できるように第二軸 1 0 4 の延びる方向(第二軸線方向)に移動が規制されている。すなわち、該ローラ本体 3 0 0 は、一端をベース 1 0 に近接させた状態を維持できるように抜け止めされている。なお、この場合においても、抜け止めに関する構成は、一般的な構成であるところ、図示を省略している。

【 0 0 3 7 】

前記外輪体 3 0 1 は、弾性材料を筒状に成形したもので、ローラ本体 3 0 0 に対して着脱できるようになっている。ここで弾性材料としては、スポンジ、ゴム等の軟質なものが採用される。すなわち、外輪体 3 0 1 は、小さな力で変形できるものを採用することが好ましい。

【 0 0 3 8 】

前記隆起部 4 0 は、図 2 及び図 3 に示す如く、押圧ローラ 3 0 の一端部の外周との間に、ロール保持体 2 0 に保持させたテープロール R から引き出したマスキングテープ T の幅方向の端部(ベース 1 0 の一方の面 1 0 0 側にある端部)を介挿入できるように配置される。本実施形態においては、隆起部 4 0 と押圧ローラ 3 0 の一端部の外周との間にマスキングテープ T の端部を介挿入したときに、該端部が隆起部 4 0 と押圧ローラ 3 0 の一端部の外周とに挟み込まれるように、隆起部 4 0 は押圧ローラ 3 0 の外周に対して部分的に接触して対向している。そして、隆起部 4 0 は、押圧ローラ 3 0 との間にマスキングテープ T の端部を介挿入させることを前提に、ロール保持体 2 0 に保持させたテープロール R から引き出して押圧ローラ 3 0 に巻き掛けたマスキングテープ T が通過する領域を躲すように設けられている(図 3 参照)。すなわち、隆起部 4 0 は、押圧ローラ 3 0 の外周とテープロール R の外周との接線が存在する領域を躲して設けられている。

【 0 0 3 9 】

そして、該隆起部 4 0 は、テープロール R の回転中心となる第一軸線と押圧ローラ 3 0 の回転中心となる第二軸線とを通る仮想線を境に二分される領域の少なくとも何れか一方の領域に設けられる。本実施形態に係る隆起部 4 0 は、二分される領域のそれぞれに対して設けられている。かかる二つの隆起部 4 0 は、第一軸線と第二軸線とを通る仮想線を基準とした対称位置に配置されている。なお、本実施形態においては、ベース 1 0 の中心線 C L 上に第一軸線と第二軸線とが設定されているため、前記仮想線はベース 1 0 の中心線 C L と一致している。

【 0 0 4 0 】

本実施形態に係る隆起部 4 0 は、所定厚みに設定された短冊状をなす樹脂製の板材をベース 1 0 の一方の面 1 0 0 に貼り付けることで形成されている。本実施形態において、押圧ローラ 3 0 を挟んで短冊状をなす二つの板材をハの字状に配置することで、二つ(一対)の隆起部 4 0 がベース 1 0 の中心線 C L を基準にした対称位置に形成されている。

【 0 0 4 1 】

前記隆起部 4 0 には、マスキングテープ T を貼り付ける面(マスキングする領域: 以下、マスキング領域という)と直角又は略直角をなす面(以下、この面を立面という)に沿わせるためのガイド面 4 0 0 が押圧ローラ 3 0 の一端よりも他端側でベース 1 0 の一方の

10

20

30

40

50

面 1 0 0 と同方向に向いて形成されている。本実施形態の隆起部 4 0 は、上述の如く、板材で構成されているため、該板材のベース 1 0 に貼り付けられた面とは反対側の面が前記ガイド面 4 0 0 を構成している。

【 0 0 4 2 】

本実施形態に係るマスキングテープ貼付け具 1 は、以上の構成からなり、次に、かかるマスキングテープ貼付け具 1 の使用方法について説明する。

【 0 0 4 3 】

まず、図 1 及び図 2 に示す如く、ロール保持体 2 0 に保持させたテープロール R からマスキングテープ T を引き出し、該マスキングテープ T の粘着面とは反対側の面（非粘着面）を押圧ローラ 3 0 に巻き掛けるとともに、ベース 1 0 の一方の面 1 0 0 から隆起した隆起部 4 0 と押圧ローラ 3 0 の一端部の外周との間に、テープロール R から引き出したマスキングテープ T の幅方向の一端部を介挿入した状態にする。この状態で、マスキングテープ T は、押圧ローラ 3 0 に巻き掛けられた部分で粘着面が外側に向いた状態となる。

10

【 0 0 4 4 】

そして、図 4 及び図 5 (a) に示す如く、マスキングテープ T の巻き掛けられた押圧ローラ 3 0 をマスキング領域 M に押し付けることで、押圧ローラ 3 0 に巻き掛けられたマスキングテープ T の粘着面がマスキング領域 M に圧接した状態となるので、この状態を維持しつつ立面 S にガイド面 4 0 0 に沿わせてマスキングテープ貼付け具 1 を移動させる。これにより、マスキングテープ T がテープロール R から引き出されつつマスキング領域 M に順々に貼り付けられることになる。なお、図 5 (a) 及び図 5 (b) において、マスキングテープ T、押圧ローラ 3 0、マスキング領域 M、面取り C a のそれぞれが間隔をあけて示されているが、これはそれぞれの状態を明確に示すためのもので、実際にはそれぞれが密接した状態となっている。

20

【 0 0 4 5 】

そして、上記構成のマスキングテープ貼付け具 1 は、押圧ローラ 3 0 の外周（外輪体 3 0 1）が弾性材料からなるため、上述のように押圧ローラ 3 0 がマスキング領域 M に押し付けられると、図 5 (b) に示す如く、そのマスキング領域 M の態様に応じて押圧ローラ 3 0 の外周が変形し、該押圧ローラ 3 0 に巻き掛けられたマスキングテープ T も追従して変形することになる。

30

【 0 0 4 6 】

従って、マスキング領域 M と立面（ガイド面 4 0 0 を沿わせた面）S との境界部（角部）に面取り C a が設けられていると、押圧ローラ 3 0 の外周が面取り C a に対応するように変形するのに伴って、マスキングテープ T の幅方向の一端部も面取り C a に沿うように変形する（倒れ込む）ことになる。

【 0 0 4 7 】

そして、上記構成のマスキングテープ貼付け具 1 は、ベース 1 0 の一方の面 1 0 0 から隆起した隆起部 4 0 と押圧ローラ 3 0 の一端部の外周との間に、テープロール R から引き出したマスキングテープ T の幅方向の一端部を介挿入されるため、押圧ローラ 3 0 の外周の変形に伴ってマスキングテープ T の幅方向の一端部が面取り C a に沿うように変形したときに、その面取り C a 全体に密着することになる。

40

【 0 0 4 8 】

すなわち、図 5 (a) に示す如く、隆起部 4 0 と押圧ローラ 3 0 の一端部の外周との間に、テープロール R から引き出したマスキングテープ T の幅方向の一端部を介挿入することで、ガイド面 4 0 0 をマスキング領域 M と直角をなす立面 S に沿わせた状態で、マスキングテープ T の一端がガイド面 4 0 0 を沿わせた立面 S（面取り C a の端）よりも外側に位置することになる。これにより、マスキング領域 M に沿った方向におけるマスキング領域 M と面取り C a との境界 P 1 からベース 1 0 の一方の面 1 0 0 に向けて延出したマスキングテープ T の端部の延出量 X が、マスキング領域と面取り C a との境界 P 1 からマスキング領域 M と直角をなす立面 S（該面に沿ったベース 1 0 の一方の面 1 0 0）と面取り C a との境界 P 2 までの距離（面取り C a の幅 W）と同等またはやや長くなる（W > X）。

50

【 0 0 4 9 】

従って、マスキングテープ T の一端部が面取り C a に沿って変形した（曲がった）ときに、その面取り C a に沿う部分が不足することがなく、面取り C a 全体を覆うことができる。

【 0 0 5 0 】

以上のように、本実施形態に係るマスキングテープ貼付け具 1 は、全体を移動させるだけでマスキング領域 M に対してマスキングテープ T を順々に貼り付けていくことができる上に、マスキングテープ T の幅方向の端部を面取り C a 全体に重ねることができ、作業者の作業負担を軽減しつつも面取り C a を含めて確実にマスキングすることができる。

【 0 0 5 1 】

また、二つの隆起部 4 0 が、第一軸線と第二軸線とを通る仮想線（ベース 1 0 の中心線 C L ）を基準にした対称位置に設けられているので、ガイド面 4 0 0 を沿わせる面の向きに拘束されることなく、一つのマスキングテープ貼付け具 1 でマスキングテープ T を面に沿って貼り付けることができる。

【 0 0 5 2 】

さらに、ロール保持体 2 0 は、マスキングテープ T の幅方向の一端がベース 1 0 の一方の面 1 0 0 に沿った状態で引き出し可能に構成され、前記押圧ローラ 3 0 は、一端がベース 1 0 の一方の面 1 0 0 と近接するように設けられているので、マスキングテープ T を位置決めしつつ安定した状態で引き出すことができ、押圧ローラ 3 0 と隆起部 4 0 との間に介装入されるマスキングテープ T の範囲を、ベース 1 0 の一方の面 1 0 0 と直交する方向

10

20

【 0 0 5 3 】

さらに、押圧ローラ 3 0 の外周の弾性材料（外輪体 3 0 1 ）が交換可能に構成されているので、弾性材料の弾性が使用や経年によって弱くなったときに新たなものにすることができ、常に押圧ローラ 3 0 の外周に適正な弾性を賦与することができる。これにより、長期に亘ってマスキングテープ T を適正に貼り付けることができる。

【 0 0 5 4 】

尚、本発明のマスキングテープ貼付け具は、上記実施形態に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲内において種々変更を加え得ることは勿論である。

30

【 0 0 5 5 】

上記実施形態において、二つの隆起部 4 0 を対称位置に設け、マスキングテープ貼付け具 1 を反転させて使用できるようにしたが、これに限定されるものではなく、一つの隆起部 4 0 を設けるようにしてもよい。

【 0 0 5 6 】

上記実施形態において、短冊状に形成された樹脂製の板材をベース 1 0 の一方の面 1 0 0 に貼り付けることで隆起部 4 0 を形成するようにしたが、これに限定されるものではなく、例えば、隆起部 4 0 を構成する板材を金属製のものにしたり、板材を削りだしてベース 1 0 とともに隆起部 4 0 を形成したりしてもよい。

【 0 0 5 7 】

上記実施形態において、ロール保持体 2 0 にロール保持片 2 0 1 を設け、テープロール R の芯体の内周面にロール保持片 2 0 1 を圧接させることで保持するようにしたが、例えば、保持体本体 2 0 0 よりも外径が大きな抜け止め用のプレートを保持体本体 2 0 0 の他端面にネジ等で固定するようにしてもよい。このようにしてもテープロール R が第一軸線方向に移動することを規制した状態でテープロール R を取り付けることができる。但し、この場合、テープロール R を交換する際にネジ等の着脱作業が必要となるので、上記実施形態のようにすることが好ましい。

40

【 0 0 5 8 】

また、上記実施形態において、ロール保持体 2 0 を第一軸 1 0 3 周りで回転自在に設けることで、テープロール R を第一軸線周りで回転できるようにしたが、これに限定される

50

ものではなく、例えば、ロール保持体 20 を軸状に形成してベース 10 の一方の面 100 に固定し、テープロール R の芯体をロール保持体 20 周りで回転可能にしてもよい。但し、テープロール R の円滑な回転や抜け止めの構成を考慮すれば、上記実施形態のようにすることが好ましい。

【0059】

上記実施形態において、押圧ローラ 30 の外輪体 301 (弾性材料)のみを交換可能としたが、これに限定されるものではなく、例えば、第二軸 104 をベース 10 に対して着脱可能に構成し、押圧ローラ 30 と第一軸 103 とを交換するようにしてもよい。そして、外輪体 301 (弾性材料)を交換可能にしたものに限定されるものではなく、弾性材料を押圧ローラ 30 に対して固定したものであってもよい。

10

【0060】

上記実施形態において、ベース 10 をベース本体部 101 とベース先端部 102 とで構成し、ベース 10 の先端側に拡大部分を形成するようにしたが、これに限定されるものではなく、例えば、ベース 10 全体を長方形に形成してもよいし、非四角形状に形成してもよい。すなわち、ベース 10 の形状は一定形状に限定されるものではなく、ロール保持体 20 及び押圧ローラ 30 を取り付けることができるものであれば種々変更可能である。また、ベース 10 の基端にグリップ 50 を連設したものに限定されるものではなく、例えば、ベース 10 自体を把持してグリップとしてもよいし、また、ベース 10 の他方の面に把持可能なグリップを連設するようにしてもよい。但し、ベース 10 の他方の面にグリップを連設する場合、少なくともベース 10 の先端部を避けてグリップを設けることは勿論のことである。すなわち、グリップは、ガイド面 400 の存在する領域であって、少なくとも作業時に立面 S に沿わせる部分の裏側を避けて設けることは勿論のことである。

20

【図面の簡単な説明】

【0061】

【図 1】本発明の一実施形態に係るマスキングテープ貼付け具の全体斜視図を示す。

【図 2】同実施形態に係るマスキングテープ貼付け具の部分拡大図であって、ベース、ロール保持体、及び押圧ローラを含む部分拡大図を示す。

【図 3】同実施形態に係るマスキングテープ貼付け具の先端側から見た正面図であって、ベース及び押圧ローラの部分破断を含んだ正面図を示す。

【図 4】同実施形態に係るマスキングテープ貼付け具の使用態様を説明するための説明図であって、ベース、ロール保持体、及び押圧ローラを含む部分側面図を示す。

30

【図 5】同実施形態に係るマスキングテープ貼付け具の使用態様を説明するための説明図であって、(a)は、押圧ローラに力を加えていない状態の説明図を示し、(b)は、押圧ローラに力を加えた状態の説明図を示す。

【符号の説明】

【0062】

1 ... マスキングテープ貼付け具、10 ... ベース、20 ... ロール保持体、30 ... 押圧ローラ、40 ... 隆起部、50 ... グリップ、100 ... 面、101 ... ベース本体部、102 ... ベース先端部、103 ... 第二軸、200 ... 保持体本体、201 ... ロール保持片、300 ... ロール本体、301 ... 外輪体、302 ... ブッシュ、400 ... ガイド面、CL ... 中心線、M ... マスキング領域、P1 ... 境界、P2 ... 境界、R ... テープロール、S ... 立面、T ... マスキングテープ、X ... 延出量

40

